

目次

1	設計コンセプト・設計方針	1
2	計画概要・配置計画	2
3	平面計画・設計方針	3・4
4	立面計画・断面計画	5
5	ユニバーサルデザインと交流の仕掛け	6
6	環境・設備・構造計画	7

<基本方針>

- 2019年に市制施行100周年という節目の年を迎えた中、本市では、次の100年のまちづくりとして、自立した持続可能な社会の実現に向けた「SDGs 未来安心都市・明石」の創造を掲げ、「いつまでも」「すべての人に」「やさしいまち」の実現に「みんなで」取り組んでいきます。
- 西明石地域交流センターはその拠点となる施設であり、現在西明石に暮らしている市民の皆さまはもとより、将来明石に住む方々、そして次の世代を担う子どもたちに向けた、まさに、まちの未来への贈り物となる施設です。
- 地域交流センター整備に当たっては、単なる施設にとどまらない、市民サービスやまちづくりの拠点、そして「本と出会い、人とつながる交流の場」となるよう計画を行います。

1 設計コンセプト・設計方針 **基本理念「本と出会い、人とつながる交流の場」**

現サンライフ明石の機能+α

現サンライフ明石の機能を発展させつつ、新たに「本のまち明石」を推進する図書コーナーと地域交流スペースを加えます。気軽に立ち寄れる機能を低層階に配置することで賑わいを生み、「本と出会い、人とつながる交流の場」を創出します。

想定利用者：世代だれもが利用できる施設（子ども・子育て世代、若者、中高年）

導入機能・施設：

文化・交流	多目的ホール	現サンライフ明石の機能
	会議室等（音楽スタジオ等）	
	研修室	
	交流スペース	
社会教育	文化交流エリア（トレーニング可）	市民ニーズを踏まえた機能を追加
	図書コーナー	
	子ども図書コーナー	
子育て支援	自習室	
	ふれあい広場（公園、屋上）	



交差点からのイメージ

西明石地域交流センターの目指す姿

[Mission] 「SDGs未来安心都市・明石」の実現

[Vision] 「いつまでも（持続可能）」 × 「すべての人に（誰一人として取り残さない）」 ×

「やさしいまち（やさしい社会を明石から）」 × 「みんなで（パートナーシップ）」の実現

[Value] 「本と出会い、人とつながる交流の場」の創出

課題

西明石地区の地域交流拠点であるサンライフ明石の老朽化、バリアフリー・ユニバーサルデザインへの対応及び住民ニーズに基づく地域交流拠点への新たな機能に対応する。

整備方針

- 1 バリアフリー・ユニバーサルデザインの導入
- 2 環境への配慮とライフサイクルコストの縮減
- 3 工事費の抑制と工期の短縮
- 4 誰もが訪れやすく、にぎわいや交流が創出できる利用しやすい複合施設

設計コンセプト

- 1 「誰にとっても使いやすい施設であることが、西明石のこれからをつくる」
- 2 「地域の環境と共生する、機能性と合理性のある環境配慮型交流拠点」
- 3 「フロア構成の見直しによる建物のコンパクト化と、合理的な構造・設備計画」
- 4 「多様な人がそれぞれの居場所を見つけることができるインクルーシブな構成」

設計方針

- 1 「誰にとっても使いやすい施設であることが、西明石のこれからをつくる」
 - ユニバーサルデザイン（UD）レビューの実施を行います。
 - ユニバーサルデザインの徹底と、駅や周辺施設からアクセスしやすい動線計画を行います。
 - 分かりやすいサイン計画を行います。
 - ゆとりのある廊下幅や書架配置を計画します。
 - 各階に充実したトイレ等の衛生施設を計画します。
- 2 「地域の環境と共生する、機能性と合理性のある環境配慮型交流拠点」
 - 南や南東からの卓越風（外気冷風）を積極的に導入し、ナイトバージ（夜間外気導入）を行います。
 - 太陽光発電パネルを設置することで、エネルギー創出を計画します。
 - 西面採光を遮蔽するようコアを西側に配置し、またピロティが南側からの直射日光を和らげます。
 - 室内の均斉度を高める外装が屋内の快適な光環境を作り出します。

- 3 「フロア構成の見直しによる建物のコンパクト化と、合理的な構造・設備計画」
 - 建物を4階建て+4階屋上広場の計画とし、建物全体の高さを抑えることで、施工性の向上とコスト低減を図り、工期の短縮に寄与します。
 - 屋上広場は、大スパンが必要な多目的ホール上部に負荷をかけないよう、多目的ホールと同フロアに配置することで、構造にかかるコストを低減します。
- 4 「多様な人がそれぞれの居場所を見つけることができるインクルーシブな構成」
 - サンライフ明石の利用率の高さから、2階の多目的室や会議室は、可動間仕切りにより、隣り合う部屋を一体利用しやすい配置とします。
 - 多目的ホールは、多様な行事及びスポーツ利用が可能な広さを確保し、利用者の幅を広げます。
 - コンパクトな吹抜けと、それに付随する階段が上下階での「みる・みられる」の関係性を生み、利用者の活動を立体的に視認できるようにします。
 - 東側通りに対して1階の壁面をセットバックすることで、駅へ向かう人などを引き込み、1階の活動や展示に気軽に触れられる計画とします。
 - 屋外広場に面する1階の扉は大きく開くことのできるものとし、内外の一体利用可能な計画とすることで、様々なイベントに対応する計画とします。
 - 1階南側の屋外広場はピロティでの半屋外空間とすることで、雨天時に利用可能で、夏場は心地よい日陰空間をつくります。

2 計画概要・配置計画

(1) 配置計画

- 1階と2階の東側をセットバックすることによって生まれたピロティは、駅側や周囲からのひとの流れを引き込み、1階の活動や展示に気軽に触れられる計画とします。
- 東側と南側に面して交流機能を配置し、外部との一体利用も行うことができるよう計画します。
- 搬入の出入口は北側とし管理諸室やバック動線をまとめます。歩車分離を徹底し、管理しやすく安全な施設を計画します。
- 屋外広場や3階の図書コーナー、4階の屋上広場は南側に面して配置することで、交差点や交通量の多い道路からのひとびとを引き込み、ひと・まち・としょが会い、交流が生まれる計画とします。

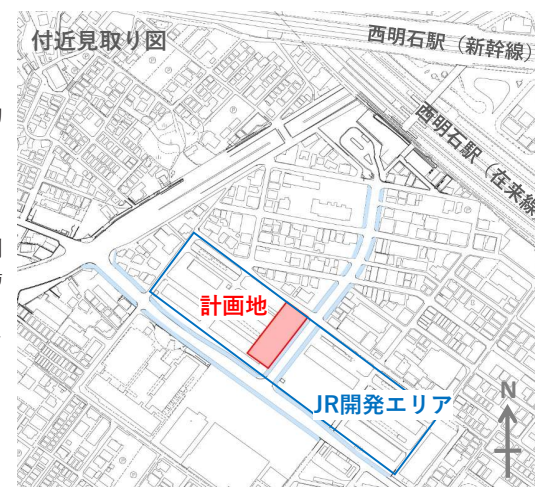
(2) 動線計画

<歩行者動線>

- メインエントランスは新しく計画される改札からの道路に面する東側エントランスと、既存の商業施設や周囲からアクセスしやすい南側エントランスを設置する計画とします。
- 東側屋外通路と南側の屋外広場はピロティ空間とし、雨に濡れることなく、施設内にアクセス可能な計画とします。
- 南側の屋外広場に屋外階段を設け、2階へ直接アクセス可能な計画とし、外部と連続する賑わいの創出や有効な避難計画に寄与します。

<車両動線>

- 駐輪場は北側屋内に設け、自転車や二輪自動車であらわれる方にとって利用しやすい計画とします。
- 自動車は敷地北側からアクセスできる計画とします。
- 移動図書館の活動にも対応しやすいよう、北側サブエントランス（管理者用）付近に駐車場の配置を計画します。
- 車いす対応駐輪場は敷地北側に配置し、雨に濡れずアクセスできるよう計画します。



1F：交流フロア

[フリースペース]

- 交差点に対して内部の活動が見えるように計画します。
- 一部可動式の建具によって、屋外広場と内部空間をつなげます。
- 交差点からスムーズにアクセスできるよう、南側にエントランスを設けます。
- 3階図書コーナーで借りた本を広げられるように机や椅子を配置し、会話が生まれる空間を計画します。

[地域活動スペース]

- 東側都市計画道路に面した場所に計画し、地域で子どもを支える拠点をつくります。

[保育ルーム（一時預かり）]

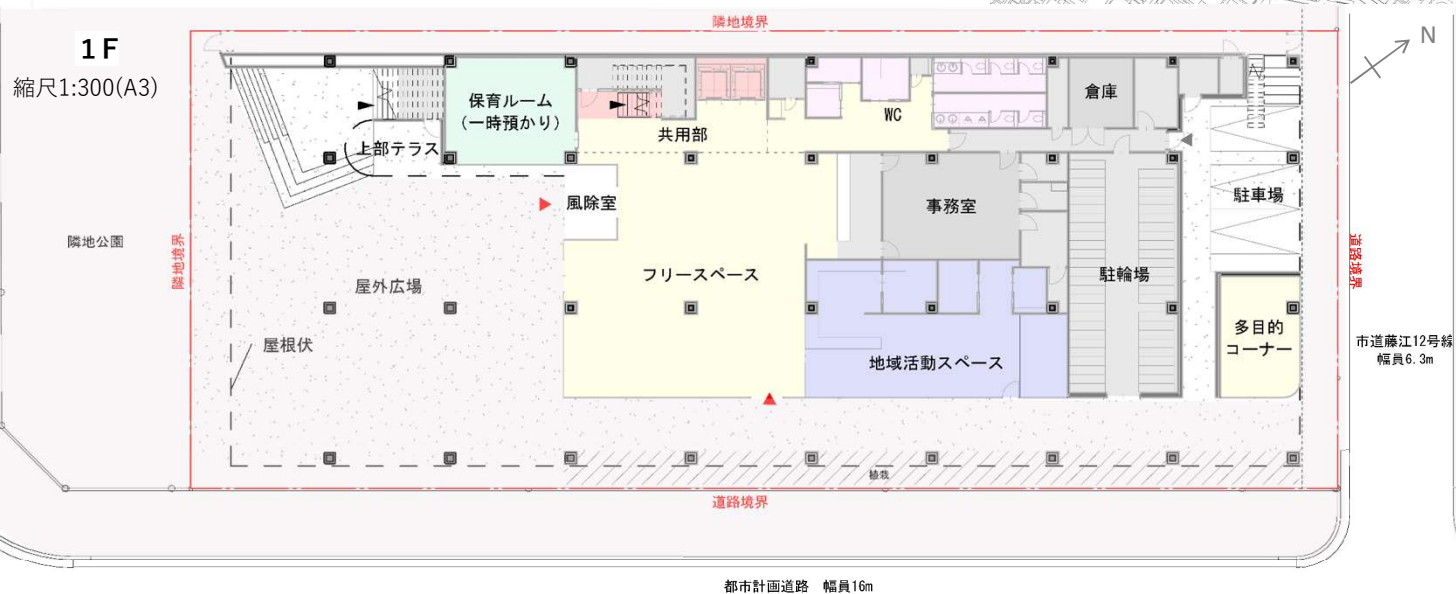
- 施設利用者のほか、どなたでも利用できるようにし、地域の子育てを支援します。

[事務室]

- 建物中心部かつ視認性の良い場所に計画し、事務室での本の返却も可能とします。

[駐輪・駐車場]

- 車いす対応駐輪場を含む、駐車スペースを計画します。自転車および自動二輪の駐車スペースを十分に計画します。



縮尺1:300 (A3)

【敷地概要】

建設地	: 明石市西明石南町3丁目2の一部
面積	: 1,646㎡
用途地域	: 近隣商業地域
防火地域	: 準防火地域
建蔽率	: 80%
容積率	: 300%
道路幅員	: 東側16m、北側6.3m

【施設概要】

主要用途	: 複合用途(図書館、集会所)
工事種別	: 新築
構造	: 鉄骨造
建築面積	: 1,278㎡
延床面積	: 3,400㎡
階数	: 地上4階
最高高さ	: 20.4m

【駐車・駐輪台数】

駐車場	: 3台
(車いす対応駐輪場1台)	
自動二輪駐輪場	: 4台
自転車駐輪場(平置き式)	: 24台
自転車駐輪場(2段式)	: 66台

用途	面積
フリースペース	182㎡
地域活動スペース	108㎡
事務所	78㎡
保育ルーム(一時預かり)	44㎡



3 平面計画・設計方針

3F：図書フロア

- 図書コーナーの休館時にはEVは着床せず、セキュリティコントロールできるような計画します。

[図書コーナー]

- 中央に設けた出入口により、フロア全体を見渡せるようにするとともに、貸出カウンターも出入口付近に設けることで利用しやすい計画とします。
- 事務室を開放的かつコンパクトにまとめ、図書コーナーに死角の生じにくい計画とします。
- 自動貸出・返却機の設置やユニバーサルルーム、多目的室（対面朗読室）、電子閲覧席を計画します。
- 吹抜けを介して図書コーナーの雰囲気や上下階からも感じさせ、訪れたいように計画します。
- ソファ席を多く設置し、人とゆったり話して交流したり、読書もしやすい空間とします。
- 児童書エリアや一般書エリアをゾーニングし、それらを緩やかに繋ぐ計画とします。
- 南側の広場を眺めながら静かに読書が出来る閲覧室を設けます。

[テラス]

- 隣地開発との目線を考慮しつつ、周囲の景観を臨むテラスを計画します。

2F：学習・多目的室・会議室フロア

- 1階から学習室が見えたり、外部から多目的室などの活動が見えるようにし、人のつながりや交流を促進します。

[多目的室]

- 多目的室の間仕切り壁を可動式にすることで、用途に合わせて連結して利用できる計画とします。

[会議室]

- 16人程度が利用できる設えとします。

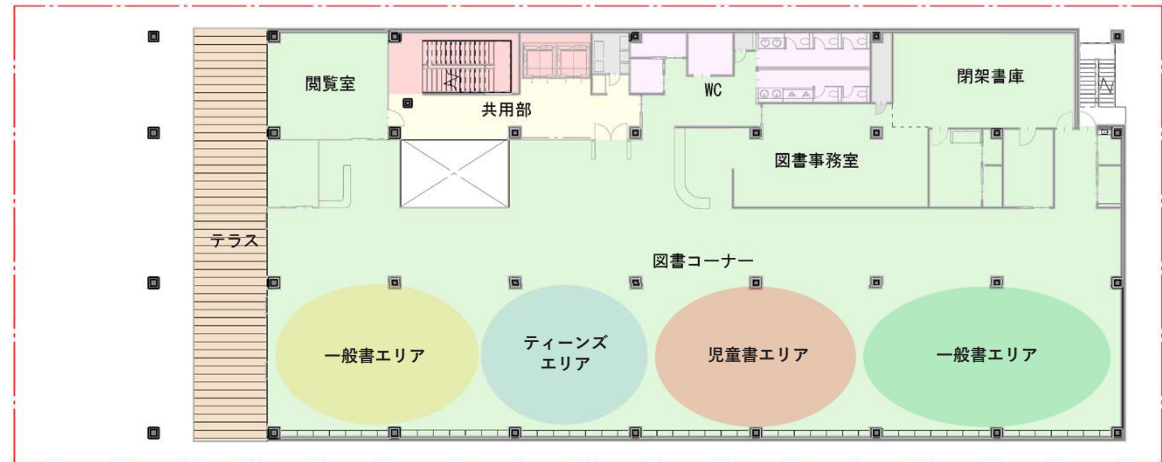
[フリースペース]

- 吹き抜けに面したカウンター席と、休憩にも利用できる席を計画します。
- 吹抜けを介して上階の図書コーナーの雰囲気や、下階の賑わいを感じられるようにフロアごとのつながりを計画します。

[学習室]

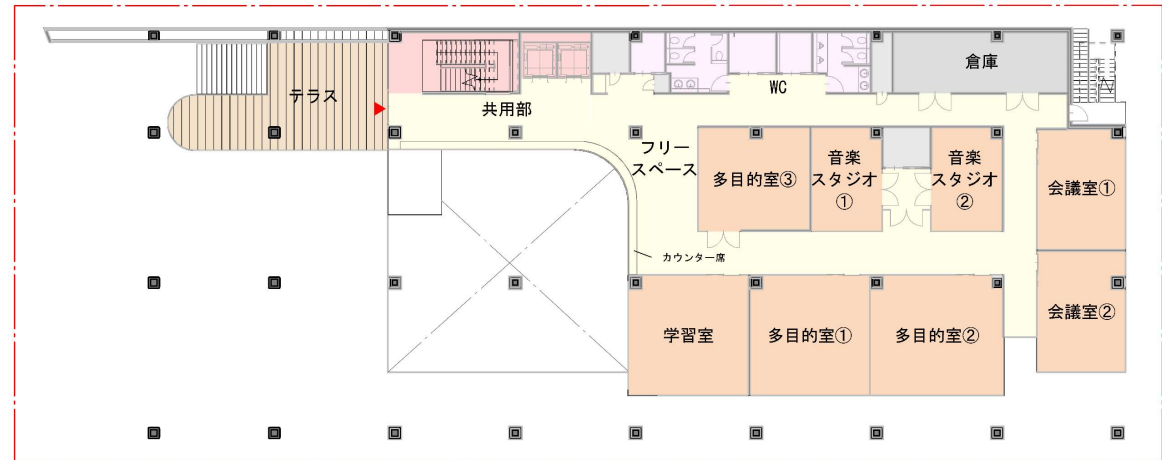
- 賑わいある空間から縁を切るように、静けさのある空間を計画します。

3F



用途	面積
図書コーナー	923㎡

2F



用途	面積	人数	用途	面積	人数	用途	面積	人数
会議室①	34㎡	16人	多目的室①	45㎡	24人	学習室	45㎡	24人
会議室②	34㎡	16人	多目的室②	49㎡	24人	音楽スタジオ①	23㎡	
			多目的室③	36㎡		音楽スタジオ②	23㎡	



3 平面計画・設計方針

RF：設備フロア

- 設備機器の周りには、目隠し壁を設けるなど、周囲からの見え方に配慮します。

[ソーラーパネル]

- 多目的のホール上部の屋根にはソーラーパネルを設ける計画とします。

[キュービクル]

- メンテナンス通路を十分確保した計画とします。

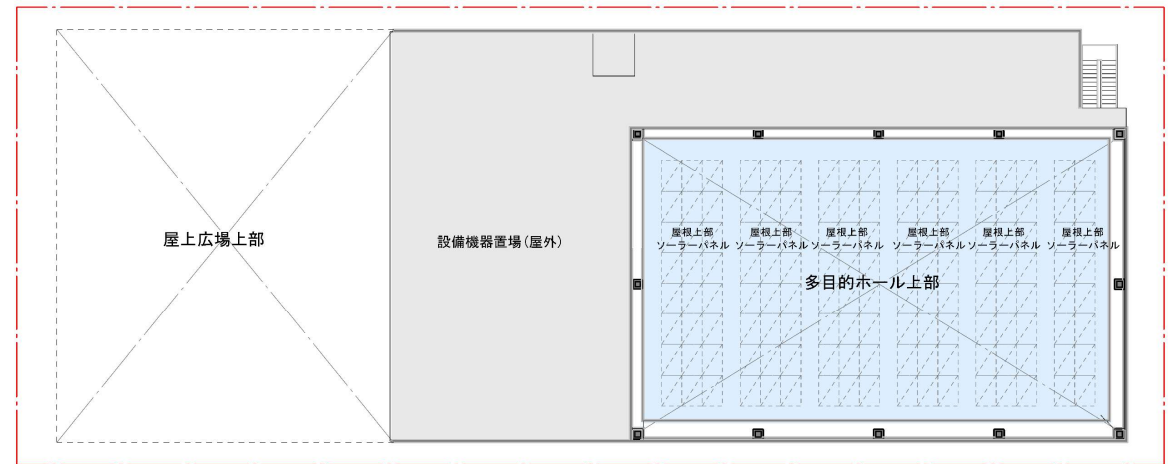
[非常用発電]

- 非常時に活用できる電源を備えます。

[設備機械]

- 周囲への騒音に配慮した計画とします。

RF



4F：多目的のホール・トレーニング・屋上広場フロア

- 吹抜けを介して下階の図書コーナーの雰囲気が感じられるようにし、フロアごとのつながりを計画します。

[多目的のホール]

- 格納された備品・器具を取り出しやすいよう、奥行き浅い壁面倉庫を広く確保します。
- 現サンライフ明石のホールと同規模の広さや高さとし、バドミントンコートでは3面、バレーボールでは1面利用できる計画とします。

[更衣室]

- ロッカーを設置した更衣室を計画します。

[トレーニングエリア]

- トレーニング機器を揃えます。
- 屋上広場に隣接してトレーニングエリアを設けて、お互いの活動が見えるように計画します。

[屋上広場]

- 防球ネットで周囲を覆うことで、ボールの敷地外への飛び出しを防ぎます。

4F

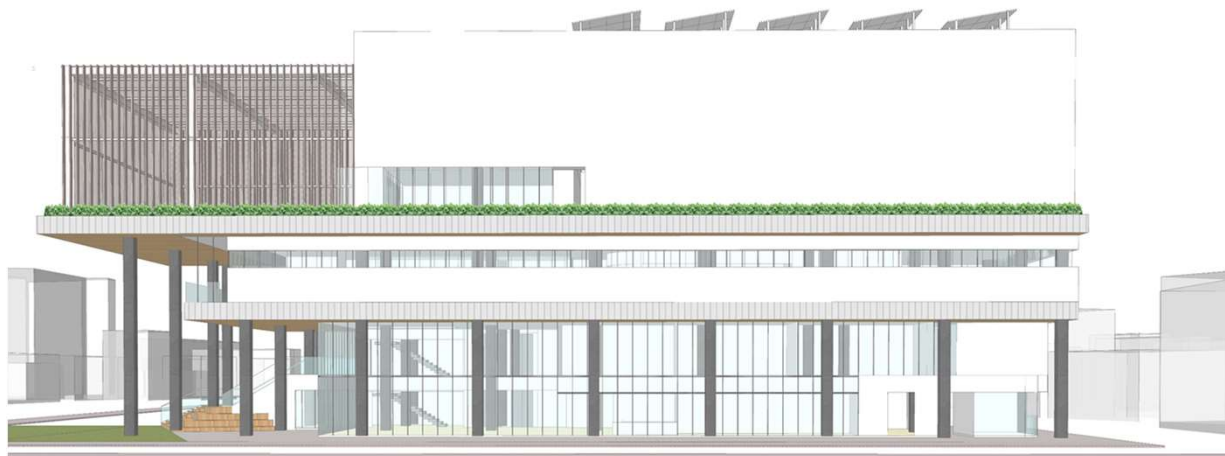


用途	面積
屋上広場	461㎡
トレーニング エリア	119㎡
多目的のホール	423㎡

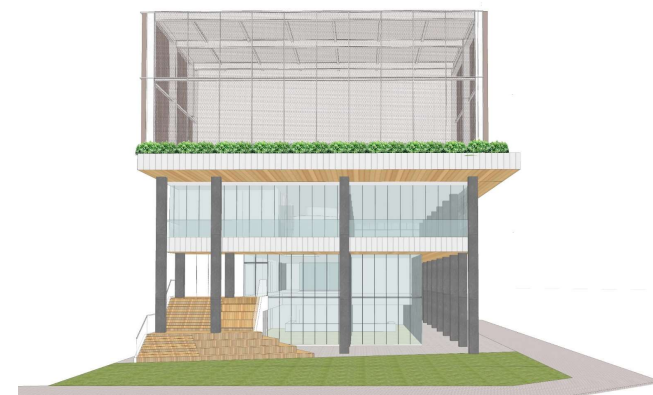
4 立面・断面計画

【立面計画】

- ・ 建物を低層化することで、周辺建物から突出した規模にならないように配慮します。
- ・ 南側は開放的なデザインとし、人々の内外の活動が連続するような顔づくりを行いつつ、東側や西側立面は開口部の面積を抑えて日射抑制を図ります。
- ・ 低層部の外装材にはガラスを多く用いることで開放感を生み、利用者が入りやすい雰囲気を作ります。
- ・ 外装材は耐久性とメンテナンス性に配慮し、建物の維持管理コスト低減に寄与します。
- ・ ピロティの軒裏部分等の雨のかからない箇所は木材活用などを図り、人々に親しみを与えると同時に脱炭素社会への貢献を図ります。



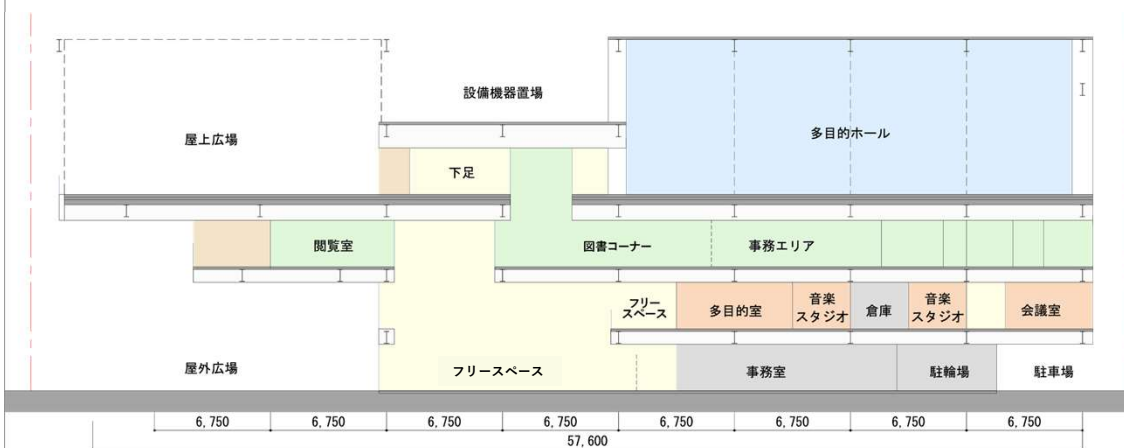
東面立面イメージ



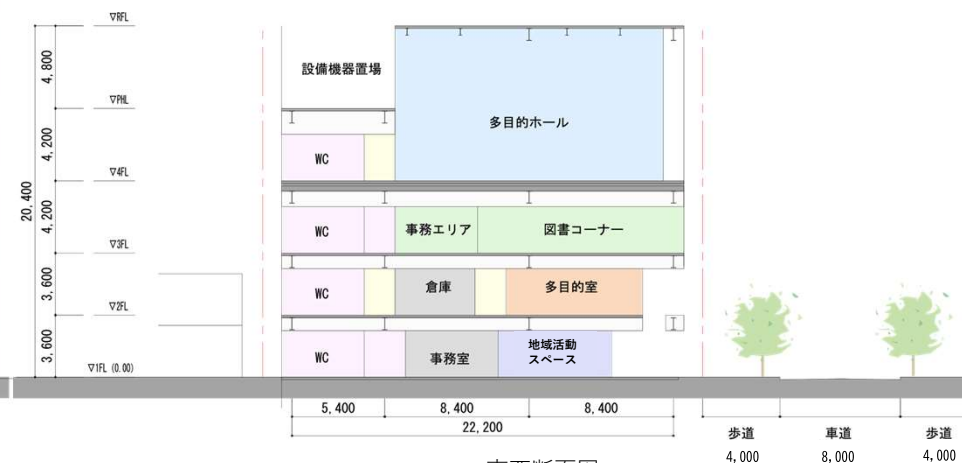
南面立面イメージ

【断面計画】

- ・ 階高をコンパクトに抑えつつも、上階からの振動・騒音を考慮した断面計画とします。
- ・ コンパクトな吹き抜けで上下階をつなぐことで、自然通風を生かした室内環境を形成するとともに、各階のアクティビティが視認できる断面計画とします。



南北断面図

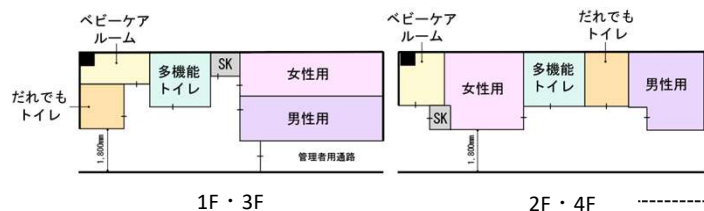


東西断面図

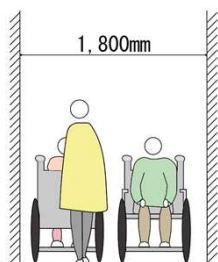
5 ユニバーサルデザインと交流の仕掛け

ユニバーサルデザイン

① トイレ等の衛生施設の充実



② ゆとりのある通路の確保



車いすの往来に十分対応できる通路幅とします。

③ 多言語に対応した分かりやすいサイン計画

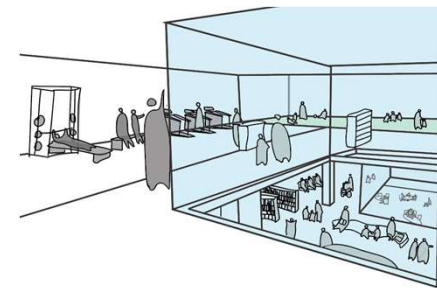


④ 雨に濡れずにアクセスできる軒下空間



交流の仕掛け

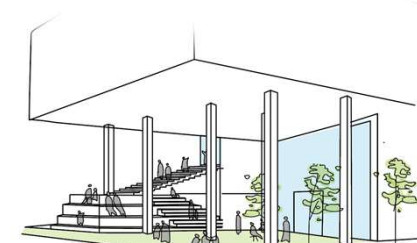
⑤ 吹き抜けによるフロアごとのつながり



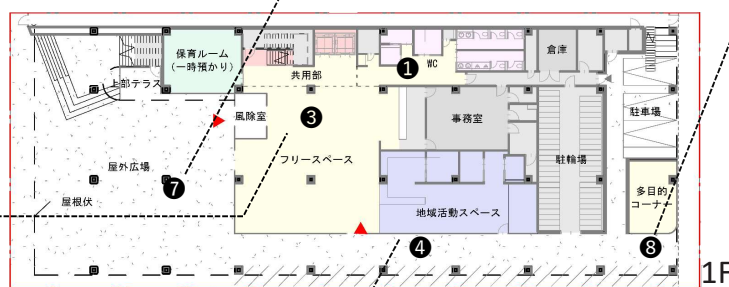
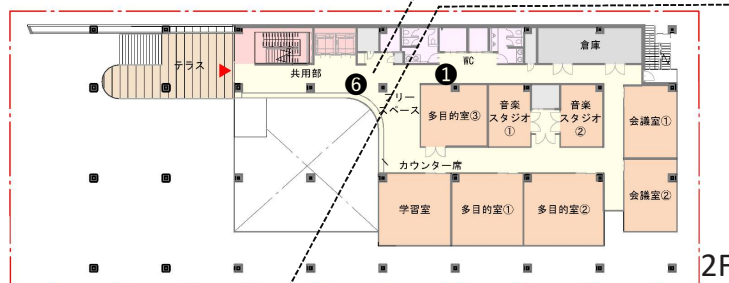
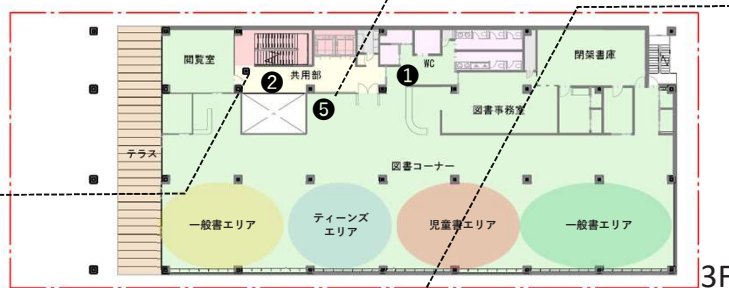
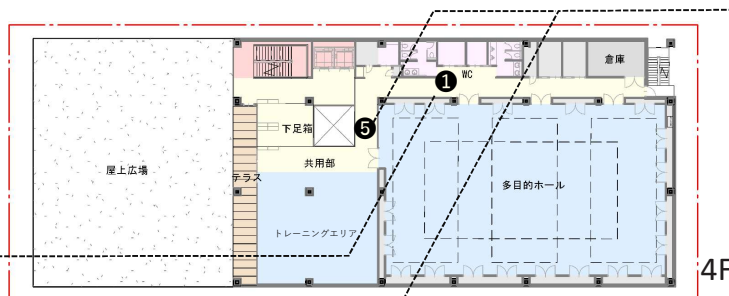
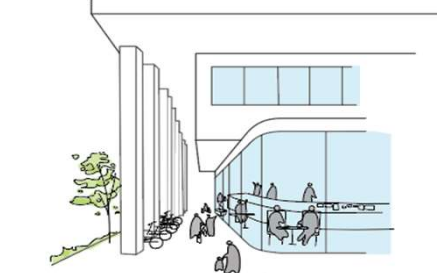
⑥ 2階フリースペースと1階フリースペースとのつながり



⑦ 屋外広場のピロティ空間がひとの流れを引き込む



⑧ 駅とまちをつなぐ軒下の東側屋外通路 (駅側からみたイメージ)



6 環境・設備・構造計画

環境・設備計画

[電気設備計画]

- ・自然採光や太陽光発電システムを導入し、消費電力を低減します。
- ・長寿命で消費電力の少ないLED照明器具を主体とした照明計画とします。

[電気設備計画方針]

- ・自然エネルギーとして太陽光発電設備の利用を計画します。
- ・高効率機器(高効率変圧器、LED照明)を採用します。
- ・省エネルギーに配慮した照明制御方式(人感センサーによる点滅、タイマー制御、点灯区分)の細分化を採用します。

[電気設備計画概要]

- 受電方式 : 高圧1回線受電
 受変電設備 : 変圧器容量 1200kVA(高効率型)
 発電設備 : 非常用発電機 100kVA
 太陽光発電パネル 55kw
- 電灯設備 : 一般照明・誘導灯・非常用照明設備(全てLED)
 雷保護設備 : 新JISレベルIV
 通信設備 : 構内情報通信網設備、構内交換設備、映像・音響設備、テレビ共同受信設備、誘導支援設備、時刻表示設備、駐輪場管制設備
- 防犯設備 : 監視カメラ設備、入退室管理設備、機械警備設備
 防災設備 : 自動火災報知設備、自動閉鎖装置設備、火災通報設備、非常・業務放送設備

[機械設備計画]

- ・機械換気に加え、自然換気も活用することで、中間期の空調負荷を低減します。

[機械設備計画方針]

- ・耐久性、保守性、節水、バリアフリーに配慮した衛生器具とします。
- ・操作性、保守性、経済性を考慮し、個別空調方式とし、環境に配慮した高効率な機器を採用します。
- ・空調対象室の換気は原則、全熱交換型換気扇とし空調負荷の低減を図ります。
- ・運転管理しやすいシステム、汎用品の採用、耐久性の高い機器・材料の採用により長寿命化とライフサイクルコストの低減を図ります。
- ・主要な設備機器スペースを屋上に設け、更新が容易な計画とします。

[空調設備計画概要]

- 空調設備 : 空冷ヒートポンプエアコン+全熱交換ユニット
 自動制御設備 : パッケージエアコンおよび全熱交換ユニットの集中監視制御(集中リモコン)

- 換気設備 : 第1種換気、第3種換気
 排煙設備 : 自然排煙・告示適用とし、機械排煙なし

[給排水衛生設備計画概要]

- 衛生器具設備 : 節水型器具、1階のみレジリエンス対応
 給水設備 : 直結増圧方式または受水槽+加圧給水ポンプ方式
 排水設備 : 屋内・屋外共、汚水・雑排水合流、雨水分流方式
 地域活動スペース系統に屋外グリーストラップを設置
- 消火設備 : 消火器、屋内消火栓設備
 ガス設備 : 都市ガス13A 地域活動スペース(厨房機器、給湯)に供給

構造計画

概要

重要度係数	Ⅱ類
構造種別	鉄骨造(一部、鉄筋コンクリート造)
構造形式	X方向:純ラーメン架構 Y方向:ブレース付きラーメン架構
基礎形式	杭基礎

※暫定

※暫定

[構造計画基本方針]

- ・耐震性能は、「官庁施設の総合耐震・耐津波計画基準」等に基づき、Ⅱ類とし、1.25の重要度係数を設定します。
- ・構造種別は鉄骨造とし、空間のフレキシビリティに配慮します。
- (暫定、計画の深度化,コスト比較などにより正式に決定)
- ・基礎は杭基礎とし、堅固な支持層に達せさせることで建物荷重を支持します。
- (暫定、地盤調査結果、コスト比較などにより決定)

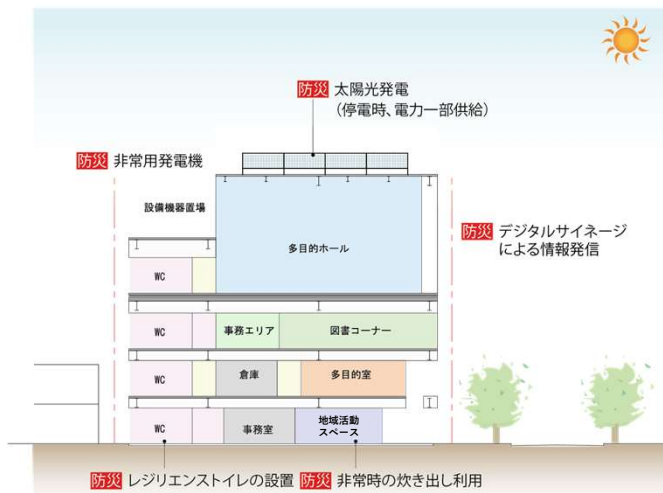
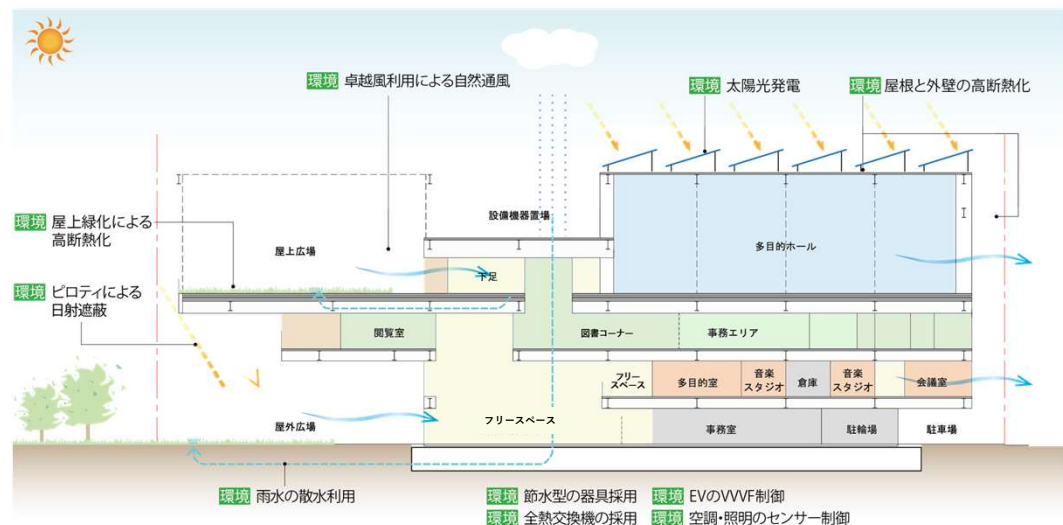
[インフラのバックアップ対策]

<電気設備>

- ・災害時に必要となる非常電源の確保のため、非常用発電機の燃料は最大24時間程度の燃料の備蓄を可能とします。非常電源は、災害時において鉄道や交通機関等が停止した場合に、帰宅が困難になった人達の一時的な滞在場所として、一時待機場所用の電源とします。

<給水対策> <排水設備> <空調・換気設備>

- ・今後検討
- <通信設備>
- ・通信設備は、一般電話回線、通信回線等の手段を確保し、災害時の通信途絶を防ぐ計画とします。



建設工事費

・17億円(税込)

※家具什器および太陽光発電設備に掛かる費用などは別途。

※今後の物価上昇によってコストが変動する場合があります。

※今後のコスト調整によって面積の増減・計画の変更が生じる場合があります。